

同志社女子大学

生活科学会通信

No. 62

2021年6月

同志社女子大学
生活科学会

持続可能社会の実現に向けて

小松 龍史 (生活科学会会長)

二〇一五年九月、「国連持続可能な開発サミット」がニューヨークの国連本部において開催され、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」: SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) が採択され、そこには17の達成目標が示されている。達成目標の中には、「食と栄養」「健康や福祉」「住居やまちづくり」「気候変動やエネルギー」「環境問題」「平等」などに関わる具体的な目標が設定されている。さらに首相が「2050年カーボンニュートラル宣言」を行ったり、アメリカがパリ協定に復帰したことが注目されているように、SDGsとも関係が深い温室効果ガス削減への取り組みも大きな注目点である。

これらの動きを私たち「生活科学」を志す者が座視してはいけないことは間違いない。なぜならSDGsも温室効果ガス削減も「生活科学」と密接に関連しているからである。たとえば、「2050年において世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する(1.5℃目標)」というパリ協定を実現するにはどのような取り組みが求められるのか。日本における一人当たりのカーボンフットプリント(最終消費によって直接または間接的に発生する温室効果ガス排出量) 目標が計

算され考察した報告書(1.5-Degree Lifestyles, Targets and Options for Reducing Lifestyle Carbon Footprints)がある。この中で、現状と目標との間のギャップを領域別に分析したところ、二〇一七年時点のカーボンフットプリントは食に関連して1,400 kg、住居領域全体で2,400 kg、移動に関しては1,550 kgCO₂e/人/年だということ。この3領域だけで全体の71%を占めている。これを基に二〇五〇年までに日本人が削減しなければならぬカーボンフットプリントは、食に関連した部分で75%、住居関係で93%、移動関係が96%だそう。全体でカーボンフットプリントを91%削減する必要があるとされた。食に関連した部分では肉や乳製品の消費やフードロスの削減などが考えられる。住居関係では化石燃料エネルギーを用いた暖房、給湯、調理、照明の削減や家屋の断熱効果の向上などが必要であろう。移動に関してはガソリン自動車の使用や航空機などによる移動の問題の解決が求められる。すなわち、人々の生活のあらゆる視点での取り組みが温室効果ガス削減の鍵を握っているといえる。実現可能かどうか非常に困難な目標にも見えるが、持続可能な地球環境の実現には「生活科学」が果たす役割が大きいことに違いはないのである。

生活科学部短信

①学部長・学科主任について

2021年3月をもって、人間生活学科主任の平光睦子先生、食物栄養学科主任の今井具子先生がそれぞれの任を終えられました。

4月より生活科学学部長は前年度から引き続き川崎祐子先生が、人間生活学科主任に奥田紫乃先生、食物栄養学科主任に山本寿先生がそれぞれ就任されました。

②第35回管理栄養士国家試験の全国の平均合格率64.2%、全国管理栄養士養成施設(新卒)の平均合格率91.3%に対し、本学管理栄養士専攻新卒の合格率は97.8%(92名受験中90名合格)でした。

コロナ禍におけるそれぞれの一年

生活科学部の新しい 教員の一年

臨床病態学 田中 雅彰



私は、昨年度、新しい教員として本学に採用されました。しかしながら、採用当初に緊急事態宣言がなされ、講義も実習もすべて遠隔授業となりました。

これは、私のようなPC音痴にとってはとても試練でありました。講義や実習資料の作成はほとんどかじりでしたが、マナビー(本学に新しく導入された学生さんと教員とのインターネットを介した連絡手段で、小テスト、アンケート、レポート、成績などの実施や管理もできるシステムのことで、す)の使い方を曲りなりともマスターするにはとても困難を伴うこととなり、多少なりともPCの知識があつた妻と二人三脚で、何とか乗り越えることができました。秋の授業からは全面対面となり、学生さんだけでなく私もやつと学園生活(?)を送れるようになったので、とてもコロナ禍の一年

を乗り越えたなどといった大それたことは言えませんが、それでも本学の多くの人たちのおかげで、何とかここまで来ることができました。心より感謝申し上げます。

ところで、私はこれまで、疲労研究に取り組んできました。疲労は労作による作業効率の低下と定義され、生体のホメオスタシスの根幹をなす概念であるとともに、「痛み」、「発熱」と並ぶ三大バイオアラームの一つです。一方で、コロナ感染症治癒後の後遺症の一つとして、疲労が言われております。このような重要な問題である疲労の研究を推進し、多くの人々の健康・福祉社会を実現に貢献したいと考えています。同時に、昨年度あまりできなかった、同志社女子大学に貢献できるよう、大いに励みたいと考えています。

運営管理をしています。2020年春、緊急事態宣言の発令とともに遠隔授業の実施が決定し、初めて、実習授業を遠隔で行うための対策を講じることとなりました。製図実習では、自宅で課題に取り組めるよう、1人に1台製図板を貸し出しました。その数、約80台。段ボールへ梱包して配送する作業を、学科の先生方や助手さん達と協力して行い、無事に学生の皆さんの手元にお届けできました。

被服実習でも、ミシンを持っていない学生にはミシンを配送しました。外出の自粛や被服材料店の休業の影響で、学生が製作に必要な布や材料を購入に行けないという状況でしたが、実習室から材料を送ることで、自宅で作業を進められる様にサポートしました。授業の進行にはマナビーやTeamsなどのオンライン授業支援ツールを活用しました。実習科目ではこれらのツールを今まで殆ど利用していなかった為、学生も教職員もお互い慣れない状態からのスタートでしたが、授業を重ねていくうちに様々な機能を使いこなせる様になりました。

秋学期からは、除菌や社会的距離の確保を徹底しながらも対面授

業が出来たため、安堵したことを覚えております。まだコロナ禍の終わりが見えな日々を、困難な状況にこそ成長があると希望を持ち、乗り切りつていきたいと思います。

調理学研究室助手

調理学研究室助手

事の始まりは昨年3月。予想もしていない1年が幕を開けました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、春学期の遠隔授業が決定しました。先生のご指導の下、遠隔授業の準備が始まったものの、資料作成は予想以上に困難でした。

初回は実習のポイント動画を撮影、編集をしてマナビーで配信することにしました。しかし、音声小さかったり、動画形式の変換や書き出しに時間がかかったりと、思うようにいかない点が多

基礎栄養学研究室助手

研究室発足1年目であり、助手の私も初年度で且つコロナ禍の対応を余儀なくされ、先輩から引き継いだ内容では太刀打ちできないことが山ほどあったイレギュラー

すぎる1年でした。マナビーをフル活用した遠隔授業や、動画サイトを聞いた「見てもらう」実験など、通常と比較して決して十分とは言えない授業内容でしたが、学生らの感染リスクを考慮するとやむを得ない最善策だったと感じています。

生活科学部の助手の一年

二〇二〇年度人間生活学科実習助手

人間生活学科の実習助手は、嘱託講師の先生方の授業のサポート

を主とし、製図・被服の実習室の

秋学期からは、除菌や社会的距離の確保を徹底しながらも対面授

ようやく緊急事態宣言も解除され、秋学期から再開した対面授業

その中で少しでも学生のために

なるような授業や実験を実施するために、授業ではZoomを用いてグループワークを行い、そのなかで全体発表してもらったり、実験では実験内容の説明から実際の作業まで、少しでも分かりやすく興味を持ってもらえるように撮影を工夫したりしました。

それでも学生らの学習の場が失われてしまったことには変わりはありません。貴重な学生生活の一部を奪った感染症ですが、共に歩むべく、新しい教育方法を学ぶ良い機会であったと前向きに捉えています。

秋学期からは対面授業も始まり、学生同士の学び合いの場を設けることができたのは本校の教職員の皆様のおかげだと感じております。この一年で私は臨機応変に対応することを学びました。今年度からはゼミも始まるのでより一層精進して参ります。

コロナ禍の一年を 乗り越えて

あつという間に過ぎて
しまった2020年

生活科学研究科 生活デザイン専攻

1年

2020年は波乱としか言えな

い、初めての状況でした。精神的にも追い詰められていましたが、

教授や友達に支えられ、不安は解消できたように思います。卒業論文の進捗は、自分のペースで進めることは出来ない状況でしたが、

大学図書館で書籍を郵送で送ってもらい、なんとか研究は続けられました。遠隔授業は、身支度に時間を取られることもないという面では、とても便利であり、快適に感じていました。けれど、遠隔授業ならではの課題もありました。Windowsを設置しても、画面の乱れや、声が聴きとりにくいなど、何

の支障もなく授業を聞く事が、難しかったように思います。また、会話を遠隔授業で行ってみると、対面での会話にはない、「間」が出来てしまっ、相槌や質問をすることさえも苦勞しました。2020年は一年を過ぎるのが本当に早く、大学の学びや友人との思い出づくりを充実することはできませんでした。ただ、今まで当たり前だと思っていたこと、一つが幸せなこと、友達との遊びや旅行など、今まで目の前にあった自由がより価値のあることだと再発見できました。秋学期からは、久しぶりの対面授業だったので、煩わしかったメイクや服装を

したことを鮮明に覚えています。

この時代だから得られたもの

食物栄養科学科 食物科学専攻

4年

私が去年一年間で最も大変だったのは、オンライン上での実験実習である。

私が在籍する食物科学専攻では、実験科目の数が3年次に最大になり、年間を通して実験実習が行われる。これはコロナ禍になりリモート授業の機会が増加した昨年度でも勿論変わらない。中でも加工学実験は、送られてきた材料を使って自宅で行うことになっ

た。つまり、学校が閉鎖され機材が全く使えない中で実験を再現しなければならなかったのである。そこで私はどうすれば数少ない手持ちの調理器具で近い条件が作れるか、今までの知識から考えて実験を行った。たとえば外郎を作る際には蒸し器が使われるが、私は蒸し器を持っていなかったため、湯煎焼きの方法を用い、さらにタオルを使って鍋内の密閉度を上げるといように工夫を凝らしながら考察した。またこれまでは参考資料として紙の本を用いることが多かったが、フルリモートだった春学期は図書館が自由に使えな

ったためGoogle ScholarやLINEを活用しながら考察した。

対面授業が可能となった現在、機材や紙の本は使えるようになったものの濃厚接触を避けるため行えない実験操作があり操作の経験が積めないといった弊害は残っている。しかしながらコロナ禍という前代未聞の経験があったからこそ、検索方法の工夫といった新しいスキルを養うことが出来た。新しい引き出しが増えたという意味では、去年一年間も悪くなかったのかもしれない。

今できることを全力で！

食物栄養科学科 管理栄養士専攻

4年

昨年4月の緊急事態宣言によって、あたりまえだと思っていた日常がガラッと変わってしまいました。一部の実験だけは大学で行うことができたが、ほとんどの授業が遠隔となり、楽しみにしていた友達とお出かけや、サークル活動も全て中止となってしまいました。先生方がマネージャーZoomといった遠隔授業の手段を駆使してくださったおかげで、必要な知識を身につけることができましたが、精神面での負担が大きかったと感じています。普段なら

空き時間に友達と勉強をしたり、お昼ご飯を食べながら日々の相談をしたりすることができました。しかし、外出できないため家にこもっていると友達の勉強の進み具合が分からず、自分だけが取り残されていまいか心配でした。このような中でも私が今まで勉学に励んで来られたのは、何度でも連絡をとってくれた友達と、新しい趣味のおかげだと思っています。仲の良い友達とリマインダーを共有したり、Zoomを繋げながら自主勉強をしたりすることができました。また、自粛中でも熱中できる趣味を見つけることで日々のストレスを和らげ、勉強にも集中して取り組むことができたと考えています。

泣いても笑っても、私の大学生活はあと1年です。出来ないことばかりに目を向けて日々を悲しく過ごすのではなく、健康に過ごせていることに感謝し、今だからこそ出来ることを見つけて全力で取り組んでいきたいです。友達と協力し合い、自分と向き合う時間も大切にしながらこれからの学生生活を歩んでいこうと思っています。



実直のひと

—安藤孝雄先生を偲んで—

西村 公雄

◆安藤孝雄先生略歴◆

一九三一年一月一日 出生
 一九五五年三月 大阪大学工学部醸酵工学科卒業
 一九五六年一月 株式会社北川本家京都市工業試験場醸
 酵食品研究室勤務
 一九六一年五月 兵庫県立姫路工業大学助手のちに講師
 一九六八年四月 同志社女子大学嘱託講師
 一九七〇年四月 同志社女子大学助教

一九七五年四月 同志社女子大学教授
 この間、教務主任・家政学部長・図書館長・大学院家政学研究所科長などを歴任
 一九九六年三月 定年退職
 一九九六年四月 同志社女子大学名誉教授
 二〇二〇年七月三日 永眠、八十九歳

私の机の引き出しには、一通の封書が、約四半世紀の間、大切に保存されています。送り主のお人柄を映し出すように大変丁寧な、かつ整った文字で、十八枚もの便せん綴られているのです。

私は、一九九四年四月に赴任した当初、一人の教授に惹かれました。彼は、会議で余り発言されることはなかったのですが、たまに発言されると朴訥ながらもその内容は、理路整然とし、大変説得力のあるものでした。彼の普段の立ち居振る舞いや言動は真面目そのもので、教授とはかくあるべしと私の目には映ったものでした。その先生こそが、当時調理科学を担当されていた安藤 孝雄先生です。入社後一年ほど経ったとき、何を思われたか印刷室で仕事をす

る私をたまたま見つけられ、「西村さん。あなたを採用して本当に良かった。」と唐突にお声をかけてくださいました。思う存分自分の力を発揮できていないと感じていた私は、私のどこを見てそう思われたのか分からず、大変驚きま

したが、安藤先生に認めていただき、安藤先生に認めていただき、安藤先生は、一九九六年三月に退職されます。心の支えを失ったよう、大変悲しかった。先生がおられなくなった職場で、諸事煩末な事に煩わされ、鬱々とした毎日を過ごしていた時、一度、安藤先生に相談してみようと、厚かましくも思いの丈を文章にして、先生にお送りしたのでした。返事は、なかなか返ってくることはな

く、先生を怒らせてしまったのか、不安がわき上がって来た頃、一月の時を越えて私の手もとに届いた手紙が、冒頭のものでした。紙は、的確な答えが見いだせず徒に時が経ってしまったことをわびる文章から始まり、私の悩みに寄り添い、ご自身の経験を踏まえながら、先生のお考えをしるされたものでした。選び抜かれた示唆に富む珠玉の言葉が並びます。特に「四十代になって新しい職場へ来た場合、親しい深い付き合い、人間関係が欲しい、出来なければならぬ、と思わないことです。そう思うことで小生は気が楽になり

か？ 下町に育った私は、経済的に厳しくとも、汗にまみれて、真摯に働く人たちを多く見てきました。大学に進み研究者となることで、自らが得た知識や科学を、学びたくても学べなかった人たちに役立てようと若き頃、志したのではなかったのか。そのために今自分にはなほどの努力をしているのか？ 四十年の人生で、こびりついた塵芥は、私の目を曇らせていた。さねばならぬことを見誤らせていることに気づかされます。それを境に、私は、群れることからの距離をおくこととなります。そんな若造も、この大学で二十七年の時を刻むことになりました。この間、研究・教育・大学運営を経て、いろいろ経験させていただきましたが、何かトラブルが生じて、困ったとき、迷ったとき

「あなたを採用して本当に良かった。」と再び言っていただけのように今後も精進いたします。どうか、先生、安らかにお休みください。

『同志社女子大学生生活科学』第五十四巻・内容

(二〇二一年発行)

学会では年一回誌『同志社女子大学生生活科学』を発行しています。

二〇二〇年度は第五十四巻を発行しました。卒業生の方で購読ご希望の方は五百円(送料込み)をお振込みの上お申し込み下さい。折り返し会誌をお送りします。バックナンバーもごさいます。また、四十四巻から論文を本学のホームページ上で公開しています。なお、会員の方はどなたでもこの会誌に投稿することができます。投稿規定と原稿の書き方は生活科学会ホームページにてご確認ください。原稿締切りは毎年十月中旬です。

実直のひと

—安藤孝雄先生を偲んで—
西村 公雄

〈原著論文〉

女子大学生における居場所感覚の基底にある心理学的機軸の探索 (VI)
..... 諸井 克英・木ノ下晴菜

〈資料〉

フィンランドにおける景観保全の取り組み 麻生 美希
数のつく食べ物 (5) 名前に数字の五がつく食べ物 (その1) 森田 潤司
数のつく食べ物 (5) 名前に数字の五がつく食べ物 (その2) 森田 潤司
数のつく食べ物 (5) 名前に数字の五がつく食べ物 (その3) 森田 潤司
数のつく食べ物 (5) 名前に数字の五がつく食べ物 (その4) 森田 潤司
数のつく食べ物 (6) 名前に数字の六がつく食べ物 森田 潤司

2020年度生活科学会決算書

(自2020年4月1日～至2021年3月31日)

□経常会計

	項目	予算	決算
収入	会費	2,829,000	2,844,000
	寄付	0	0
	利息	600	582
	雑収入	205,000	206,000
	研究会運営費	0	0
	見学会所要費	0	0
	収入計	3,034,600	3,050,582
支出	大会運営費	0	0
	研究会運営費	0	0
	見学会所要費	0	0
	備品費	0	0
	印刷費	700,000	584,576
	通信費	1,620,000	1,628,319
	交通費	0	0
	文具雑品費	70,000	76,983
	アルバイト費	600,000	532,070
	雑費	0	0
	奨学金運営費振替	240,000	240,000
	支出計	3,230,000	3,061,948
	当年度収支差額	△195,400	△11,366
	前年度繰越金	8,186,595	8,186,595
	次年度繰越金	7,991,195	8,175,229

□奨学金会計

	項目	予算	決算
収入	利息	2,000	1,976
	寄付	0	0
	奨学金運営費	240,000	240,000
	収入計	242,000	241,976
支出	奨学金	880,000	600,000
	支出計	880,000	600,000
	当年度収支差額	△638,000	△358,024
	前年度繰越金	22,710,829	22,710,829
	次年度繰越金	22,072,829	22,352,805

2020年度事業報告

第54回同志社女子大学生生活科学会大会を開催しました(会長:西村公雄先生)。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、総会は書面決議とし、すべての議案が承認されました。講演会は中止としました。

研究会、見学会についてもどちらも中止としました。

奨学金のお知らせ

生活科学会では、本学生活科学部に所属する学生・院生に奨学金を支給しています。募集は9月に行います。詳細は同志社女子大学ホームページにてご確認ください。

生活科学会運営委員 (2021年度) (敬称略)

教員	小松 龍史(会長) 平光 睦子(副会長)	神田 知子 小切間美保 西村 公雄	鈴木 拓史 田中 雅彰 塚田由佳里
卒業生			
院生			
在学生	人間生活	食物科学	管理栄養
	4年次		
	3年次		
	2年次		
	1年次		
事務局	尼川佐知子		

研究室だより

服飾文化(平光) 研究室

服飾文化研究室は新たに12名のゼミ生が加わり新年度を迎えました。3回生はファッション産業の

仕組みや流れを学び、4回生は就職活動と並行して、各々興味をもったテーマで卒業論文に取り組みます。多忙な日々を過ごしていく中で、皆が健康に、そして充実した一年を過ごせるよう、精一杯サポートし共に学んでいきたいと思

います。(助手)

被服学(藤本) 研究室

被服学研究室では、4回生11人、3回生12人で新たなスタートを切りました。今年の4回生は、花をモチーフとするドレス、編み物を用いたウエディングドレス、フランス革命期や現代の外国のファッション文化に着目した衣服、子供服など様々なテーマを掲げ、卒論に取り組んでいます。それぞれの思いが込められた衣服の調査・製作を精一杯頑張ります。

(ゼミ生一同)

家族福祉学(宮本) 研究室

私たち30期生は宮本先生にとつて最後のゼミ生になります。人数は決して多くありませんが、それぞれが自分らしい考えや意見を持

ち、特に授業中の意見交換の場では私はいつも沢山の刺激を受けながら学んでいます。感染症対策を忘れず限られた時間を大切にすることは勿論、先生を含め全員で支え合いながら卒業論文を完成させる一年にしたいです。

(ゼミ生一同)

生命倫理学(小崎) 研究室

初めまして。4月から研究室助手として働きはじめて早数週間。手探り状態の日々です。さて、生命倫理学研究室では4年生・11名と3年生・12名を新たにゼミ生として迎え、それぞれ研究テーマと真剣に向き合って課題をこなしています。学生ならではの斬新な発想や考察を楽しみに、私も陰ながらその学びを応援しつつ自らの知性を深められればと思います。

(助手)

都市空間(麻生) 研究室

例年より早い桜の開花となった本年度、都市空間研究室は新たに3回生10名を迎え、計21名となりました。昨年度は滋賀県近江八幡へのフィールドワークを行い、伝統的建造物の保存活用事例の視察、地域資源の観光活用を体験しました。昨年度同様、依然厳しい状況下ではありますが、学生皆さんが学びやすい環境づくりに努めて参ります。

社会心理学(諸井) 研究室

コロナ禍にめげず今春11名の燕さんたちが世間へと無事巣立ち。入れ替わりに新たに11名の燕さんたちが「社会心理学」という巣に。研究室事務助手さん1名も含め、今年もコロナ禍をかいぐぐって全員が奮闘中。

住生活学(奥田) 研究室

今年度は12名の3回生を迎え、計22名のゼミ生と共に新学期をスタートしました。4回生は昨年の秋頃から卒業論文のテーマを決め、それぞれの研究に取り組みうとしていきます。3回生もグループ調査の課題を決定し、調査の準備に取り掛かっています。皆様が充実した時間を過ごせるよう精一杯サポートしていきたいと思

います。(助手)

環境計画学(齋藤) 研究室

今年度の環境計画学研究室は4年生7名、3年生3名の計10名となりました。昨年は京都市内で体験と万華鏡作りのフィールドワークを行うことができました。4年生の卒業論文は各々関心を持つテーマで意欲的に取り組んでいます。昨年に続き制限のある生活が続きそうですが、皆さまが充実した一年を過ごせますようサポート

住居計画(塚田) 研究室

本研究室は今年度12名の学部生と1名の大学院生を新たに迎え入れ計24名になりました。これからゼミ生の皆様は、塚田先生の温かなご指導の下、それぞれの研究・課題や就職活動に取り組みれます。皆様が充実した一年を過ごせるようお手伝いさせていただきます。

運動生理学(米田) 研究室

今年度、運動生理学研究室は9名の新しいゼミ生を迎えスタートしました。コロナ状況下で大変な思いをしながらの卒業研究と就職活動等ですが、一緒に過ごせる時間を大切に、お互い切磋琢磨しながらいろいろな面で成長していつかほしいと思います。来春、彼女たちが充実した気持ちで巣立っていきけるように微力ながら応援していきたいと思

います。(助手)

調理科学(真部) 研究室

今年度は5人のゼミ生を迎えました。コロナ禍でも就職活動を両立しながら醬油と菓つき餅のテーマごとに今は実験操作の習得に取り組んでいます。途中で悩むことも多々生じるかもしれませんが、

互いに助け合いながら、卒論を通じて自身の成長に繋げて欲しいと期待しています。また、助手の私も支えになるように努めます。

(助手)

臨床栄養学(小松) 研究室

今年度は、卒業生6名、大学院生4名、教授・助手の計12名となりました。今年度は小松先生のご在籍最終年度となります。学生にとつて、そして小松先生にとつても充実した濃い1年間を送って頂けるよう微力ながらもサポートしてまいります。卒業生の皆様におかれましては、お時間ある際にはぜひ本研究室まで来て下さると大変うれしく思います。

(助手)

食品物性学(山本) 研究室

今年度は6名の学生が本研究室に配属されました。春休み期間に、実験操作に慣れるための予備実験を終え、最近では本研究室のテーマである澱粉糊化についての勉強をしています。今後、グループごとに、それぞれのテーマに沿って実験計画を立てながら研究を進めていきます。ゼミ生がスムーズに研究できるように、精一杯サポートしていきたいと思

います。(助手)

公衆栄養学(今井) 研究室

そ それいけ
れ 連携し合っ
い 一致団結して
け 研究室です。
い 今井先生と助手さんと
ま マイベースなメンバーで
い 1年間頑張ります！
(ゼミ生一同)

公衆衛生学(吉田) 研究室

今年度の公衆衛生学研究室は9名のゼミ生を新たに迎えスタートしました。ゼミ生にとつては、卒業研究に就職活動に国家試験の勉強と、忙しく過ぎて行く一年になると思いますが、この一年が充実したものとなり、来年の春には笑顔で卒業出来るよう、精一杯お手伝いさせていただきますと思います。皆が心身ともに健康に乗りかれますように。
(助手)

基礎栄養学(鈴木) 研究室

食管6名、食物1名の計7名で研究活動に取り組んでいます。基礎栄養学研究室の1期生となれたことを嬉しく感じる毎日です。コロナ禍の卒業研究、就職活動は不安もありますが、鈴木先生・高田さんの優しく温かな指導を頂きながら、ゼミ生皆で協力して、悔いのない充実した1年となるよう頑張ります！
(ゼミ生一同)

食品加工学(西村) 研究室

今年度は食物4名、食管5名と大学院生1名が各々実験に勤しんでいます。大変なこともありすが、学生最後の貴重な時間を有意義なものにしてほしいと思ひます。また今年度、西村先生が特任教授になられました。本ゼミ卒業生の皆さま、先生はあと5年で退官されますので、ご挨拶を考慮しておられる場合はどうぞ早めに遊びに来てください。
(助手)

食品機能学(杉浦) 研究室

今年度、食品機能学研究室は9名のゼミ生を迎えました。杉浦先生の手厚いご指導の下、皆和気あいあいと課題に取り組んでいます。未だコロナウイルスに悩まされる日々が続きますが、互いに励まし合いながら充実した一年を過ごして欲しいと思います。皆が心身ともに健康でありながら円滑なゼミ活動ができるよう、精一杯サポートしていきたいと思ひます。
(助手)

食品微生物学(川崎) 研究室

今年度、食品微生物学研究室は8名のゼミ生を迎えスタートしました。ゼミ生は2つのグループに分かれ、川崎先生の熱心なご指導の下、論文検索や予備実験などそれぞれ積極的に取り組んでいるよ

うです。

この一年でしか経験できないことを通し、彼女達が大きく成長できる事を願って、私も微力ながら精一杯サポートしていきたいと思ひます。
(助手)

栄養教育学(片井) 研究室

今年度より「栄養教育学研究室」と研究室名が変わりました(旧：栄養生理学研究室)。
コロナ禍において不安な毎日ではありますが、前を向き、片井先生と二人三脚で、学生に寄り添った「学び」を提供できるよう、微力ながらも全力でアシストしたいと思っております。ゼミ室は温存中ですが、来たるゼミ生を思い、二人でただいま準備中です。
(助手)

食品栄養学(森) 研究室

私の担当は2回生の実験なので、今年度初めて授業で関わった学生が様々な経験を経て、研究室配属に進んでいったのを見ることができ、感慨深いものがあります。2年間で成長した部分や、変わらな個性なども感じられ、これから皆がどのような1年を過ごし、さらなる進化をとげるのか、今後の展開も楽しみです。しっかりとサポートしていきたいと思ひます。
(助手)

調理学(村上) 研究室

本研究室はゼミ生9人、村上先生、助手の加藤さんの11人で活動しています。食べるのが大好きで、明るく個性豊かなメンバーの集まる研究室には、笑い声が響き渡っています。厳しくも優しい村上先生と頼りになる加藤さんのご指導の下、学生生活最後の一年を中身の濃い時間にするよう頑張つていきたいと思ひます。
(ゼミ生一同)

実践栄養学(小切間) 研究室

今年のゼミは、ライフステージ別に分かれて食生活を通じた健康について研究をしています。去年に引き続き、コロナの影響で対面での活動を継続できるのか不安がありますが、ゼミ生同士で協力し合って頑張りたいと思ひます。親身に相談に乗ってくださる小切間先生、助手の尾崎さん、共同研究先の先生方にご指導いただきながら、成長できる1年にしたいと思ひます。
(ゼミ生一同)

生化学(倉橋) 研究室

本研究室は、食物1名・食管4名のゼミ生を迎えました。昨年の春はオンラインでのゼミ活動でしたが、今年度は対面でゼミ活動をスタートできたことに喜びの気持ち一杯です。卒論に向けた予備実験を行いつつ、国試の勉強に励

んでおります。まだまだ暗い話題が多いこの頃ですが、充実した1年になるようサポートしていきたいと思ひます。
(助手)

給食経営管理学(神田) 研究室

今年度は給食経営管理学研究室に9名のゼミ生が所属することになりました。神田先生のご指導のもと、卒業研究に意欲的に取り組んでいます。就職活動や国家試験もあり、何かと忙しいですが、実りある一年を過ごして欲しいと思ひます。全員笑顔で卒業出来るよう、精一杯お手伝いさせていただきます。
(助手)

臨床病態学(田中) 研究室

昨年度は新任ということもあり、ゼミ生がいまいませんでしたが、本年は9名の方が来られる予定です。教室のセッティングなどで、あわただしい日々を送っています。テーマは、疲労や意欲といった漠然としたものですが、楽しく、充実した学生生活になるよう、準備万端励みたいと思ひます。
(田中雅彰)

生活科学会第五十五回大会案内

日時 七月一日(水) 午後三時
場所 楽真館ラーニングコモンズ

一、総会 会長挨拶

- 二〇二〇年度事業報告および決算報告
- 二〇二一年度事業計画案および予算案審議

二、講演会

「疲労の科学」

田中 雅彰 (本学生活科学部食物栄養科学科教授)



疲労は労作による作業効率の低下と定義され、生体のホメオスタシスの根幹をなす概念であるとともに、「痛み」、「発熱」と並ぶ三大バイオアラームの一つです。現代人の三割以上が半年以上続く慢性的な疲労を訴え、慢性的な疲労が認められる人々の半数近くが以前に比べ作業能力が低下し十分に働けていないと感じています。一部の人では、休職、退職に追い込まれており、疲労は現代社会において大きな問題となっています。疲労を克服することは我々にとって非常に重要な課題であり、本講演では、最近の研究結果を通して、現代人の疲労について解説します。

〈講師紹介〉

大阪市立大学医学部医学科卒業。大阪市立大学大学院医学研究科生理系専攻博士課程単位取得後退学。二〇〇三年医学博士取得。数々の医療現場において臨床医として勤務。その後、大阪市立大学大学院医学研究科にて講師を務め、医療法人秀悠会中川クリニック本院副院長を経て、二〇二〇年より同志社女子大学生生活科学部教授。

.....
新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインでの開催となる可能性があります。最新の情報は学会ホームページをご確認ください。

見学会中止のお知らせ

残念ながら今年度も見学会は中止とさせていただきます。外部の施設において人が集まり体験学習を行うという見学会の性質上、この長引くコロナ禍での開催は今年も難しいと判断いたしました。2年連続の中止となり、楽しみにしていただいていた方には大変申し訳ありませんが、何卒ご了承下さいますようお願い申し上げます。

生活科学会ホームページ開設のお知らせ

生活科学会のホームページを開設しました。今後は『生活科学会通信』に加え、ホームページでも生活科学会の最新情報をお届けしますので、どうぞご確認ください。

下記アドレスを直接ご入力いただくか、下のQRコードからでもご覧いただけます。

<http://hlgakkaidwcla.com/>



問い合わせ先

同志社女子大学生生活科学会
〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入
(E-mail) hlgakkai@dwc.doshisha.ac.jp
(TEL) 075-251-4211

研 究 会

生活にまつわるお金の話

本年度の研究会は、新型コロナウイルスの感染拡大を予防するためにオンライン講演会という形で開催いたします。今回は、「お金」をテーマとしてご講演いただきます。とくに昨今では、キャッシュレス・電子マネーなど聞きなれないお金の使い方が出てきました。「キャッシュレスの仕組み」や「税金・社会保障の仕組みや種類」など生活に身近なお金についての理解を深めるために積極的なご参加をお待ちしております。

日 時 2021年10月6日(水曜日)
15:00~16:30

講 師 京都府金融広報委員会
京都府金融広報アドバイザー
藪内 美樹(やぶうち みき)氏

開催方法 **オンライン開催**

※なお、オンラインによる開催方法の詳細につきましては、学会ホームページ内の研究会ページ(<https://hlgakkaidwcla.com/研究会/>)に掲載させていただきますのでそちらをご覧ください。